

| 通信制教育目標 | 重点目標（中長期的目標） | 中間評価 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| 「生きる力」の育成 ～自学自習を通して～ ○社会に対応できる学力 ・コミュニケーション能力 ○自己の可能性の再発見 | ①単位取得に向けた履修継続への支援 ②自己実現を図るための進路指導の充実 | ひとりひとりの学力に応じた学習指導（個人指導・特別指導・補充スクーリング）により、活動の充実を図っている。確実な学力を付けて進学に向かう生徒や、就職内定を得られた生徒が昨年より増加している。 | | | | |
| | 今年度の重点目標 | 成果と課題 | A | B | C | 改善策・向上策 |
| | ①職員研修の実施 ・添削指導の工夫・改善により単位取得率の向上を図る ・全通研・中通研等を通じ先進的な取り組みを学ぶ | ・前期科目・後期科目・通年科目の混在する教育課程でスタートし、前期を終了した。前期科目に偏り、通年科目への取り組みが甘い生徒もいたが後期に回復するよう指導の工夫をしている。 ・全通研・中通研に3名ずつ参加。報告研修会を実施した。来年度長野大会準備を始める。 | | | | ・前期科目・通年科目の活動状況を総括しながら、教育課程を見直し、修正を加えていく。2期制の学習リズムに適応できるよう指導しながら、単位修得率を高めていく。 ・10月～12月の中通研各教科研究会への参加・研修を通して、来年度全通研長野大会準備の課題を探る。 |
| ②個人指導の積極的な実施 ・学習指導のための個人面接・特別指導の充実 ・保護者懇談会の充実 | ・個人面接・特別指導の希望者は多くなっている。停滞生の活性化という観点では、今一歩。 ・保護者懇談会参加者は昨年度より20名増加の109名。保護者との連携も更に強めていかなければならない。 | | | | ・教科の個人面接や特別指導が本当に必要な生徒に適切に実施でき、本当に必要な生徒の保護者と懇談が持てるよう、家庭との一層の連絡強化を図っていく。 | |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 成果と課題 | A | B | C | 改善策・向上策 |
|----|--|---|--|---|---|---|---|
| 教 | ・教育課程の改善 | ・前期・後期・通年科目等科目設定は適切であったか。 | ・前期受講指導では、講座人数を想定しながら進めることができたが、後期科目については受講生が大幅に増えてしまった。 | | | | ・1年間を総括して、後期科目のあり方を検討しながら受講指導の仕方を検討工夫していく。 |
| | ・学習指導の充実 | ・生徒によるレポート、添削、面接等の評価を実施したか。 | ・各教科で実施している。 | | | | ・生徒の声を集める工夫をしていく。 |
| | ・シラバスの活用 | ・指導に生きるるとともに生徒に役立ったか | ・生徒がシラバスを見ながら学習を進めるよう指導することが必要。 | | | | ・シラバスをレポートとともに配布するようにしていく。 |
| 育 | ・安心して学習できる環境づくり | ・集会やHRでアピールし、生活や授業のマナーを向上できたか。 | ・美化活動の強化と相まって敷地内における喫煙は大きく減少してきている。 | | | | ・生徒への呼びかけや美化活動の強化もあり、校内の吸殻等はほとんどなくなってきている。なお一層の禁煙指導を進めていく。 |
| | ・保護者との連携の強化 | ・半数以上の保護者と懇談できたか。 | ・一定の効果は上げつつあるが、必要な保護者との懇談は難しい。 | | | | ・懇談の必要な生徒への対応を強化する必要がある。 |
| | ・交通安全の徹底 ・禁煙の徹底 | ・会誌や集会等を利用して注意を喚起できたか。 | ・交通安全や禁煙、犯罪に関わることについては、集会、通信、HR等で強く指導してきた。 | | | | ・交通安全教育等、警察と協力して実施していく必要がある。 |
| 活 | ・進路指導体制の確立 | ・個人面接、特別指導等を生かし、学力の向上が図られたか。 ・進路希望調査や面接により、個々の進路希望を把握できたか。 | ・個人面談、保護者懇談会を通して早期から生活習慣や進路希望を把握し、学習指導に繋げることができた。 ・個々の生徒についての進路希望調査結果を職員全体のものとし共通理解のうえ、資料提供ができた。 | | | | ・1・2年次のうちから進路選択への意識を高めていくことが学習意欲向上へ繋がる。 ・進学・就職に関わる資料の提供を効率的に行う。 |
| | ・就職指導の充実 | ・事業所に対して通信制への理解の働きかけができたか。 | ・企業見学の依頼をはじめ、通信制の生徒を理解していただく機会を多くし、その成果として4名の就職が内定した。 | | | | ・ハローワークや企業との連携を一層深め、通信制の生徒を理解していただけるよう努力していく。 |
| 動 | ・地区活動の充実 | ・魅力ある活動ができ、参加者が増加したか。 | ・地区ハイクや研究発表は例年並みの取り組みができた。 | | | | ・後期転編入者を含めて活動の活性化を図っていきたい。 |
| | ・生徒会行事への積極的な参加 | ・運動会、文化祭、交流会での参加者が増加したか。 | ・運動会・文化祭の出席者は昨年より少なかったが、参加者は意欲的に取り組んでいた。 | | | | ・生徒会活動の中核となる執行部を育てることにより 生徒会全体の活性化を図る。 |
| 校 | ・定時制との連携に向けた研究 ・長野西との連携 | ・午前部・午後部・夜間部との連携について課題が明確になったか ・共通の課題を見出すことができたか | ・施設の共有使用等について午前部・午後部・夜間部との連携はうまくいっているが、定通併修を実施するところまでは、進んでいない。 ・全通研長野大会開催と長野西の2期制による10月生募集のために情報交換している。 | | | | ・定時制各部の学習展開が安定したところで定通併修を進めたい。 来年度6月に全通研長野大会が成功するよう両校が協力して準備を開始し、10月募集も、2校で実現できるよう連携を強めていく。 |
| | ・係活動の活性化 ・職員連絡会や職員会の活性化 ・本校通信制の理解を促す広報活動 | ・課題に対する提案や周知徹底ができたか。 ・生徒指導や学習指導に役立つ情報交換ができたか。 ・HPや通信誌を通して十分な情報発信ができたか。 ・生徒募集に係り全中学や高校に適切な資料配布や説明ができたか。 | ・各係とも積極的に職員会に課題を提案し、職員間で充分理解し協力しながら各校務分掌を進めている。 ・職員会の議題に必ず情報交換の時間をとり、生徒の学習指導や生活指導に役立っている。 ・HPにさまざまな情報を掲示し、本校の様子や通信制の学習システムを紹介した。これにより入学希望の問い合わせが多くなり、後期転編入希望者が48名となった。 | | | | ・必要に迫られた検討課題が生ずる度に連絡会や職員会を開き、課題について共通理解を得ながら進めている。 ・保健室や生徒相談室、カウンセラーとの連携を強めてより良い指導に心がける。 ・12月体験入学、学校説明会、各地区説明会の機会を有効に活用し、通信制教育が正しく理解されるよう適切なPRに努める。 |

